



# 公民

## 起業と投資を 体験的に学ぶ授業の実践

東京都 町田市立薬師中学校 主任教諭 田代 憲一

### 1 はじめに

これから社会に巣立っていく生徒たちは、金融についての知識や判断力（金融リテラシー）が求められる現代社会を生きていくことになる。公民的分野の学習の中で、金融について正しい知識と判断力を育成する授業が必要である。判断力を育成するには、知識を学んだ後、判断を迫られる場面を設定した体験的な学びが有効であると考えられる。

そこで、金融の中でも起業と投資を体験的に学ぶ単元を実践した。この単元を実践した理由は、次の3点である。1つ目は、起業や投資などを学ぶ金融経済教育が学習指導要領でも重視され、2024年からNISAが新制度になるなど近年より一層重要性を増していること。2つ目は、起業や投資を体験的に学習するという「主体的・対話的」な学びによって、金融のしくみや働きについてより深く理解できること。3つ目は、ICTを活用するとともに、部分的にアナログな手法を用いることでより実感を伴った学習になることである。

この単元では、「なぜ起業や投資が社会に必要とされているのか？」を単元を貫く学習課題として追究していく。単元の中で、起業や投資を体験的に学ぶことで、「主体的・対話的」な学習が展開され、社会における起業や投資の必要性についてより深く学ぶことができると考えられる。

本稿は、『社会科 中学生の公民』（以下、教科書）p.127～134の学習内容を筆者の過去の実践を基に授業実践提案として再構成したもので

ある。教科書の単元構成とは異なる部分もあるが、生徒にとって有意義な学びになると考えた。

### 2 実践事例

#### (1) 単元案（全6時間扱い）

| 次   | 時   | 学習内容   |
|-----|-----|--|
| 第1次 | 1.5 | <ul style="list-style-type: none"> <li>単元の学習課題に対して予想したり、学習の見通しを持ったりする。</li> <li>企業の種類と役割、株式会社のしくみ、金融のしくみと働きについて理解する。</li> </ul>  |
| 第2次 | 2.5 | <ul style="list-style-type: none"> <li>個人で新しい会社の事業計画を考える。</li> <li>グループ（生活班）で、会社の役割を決め、事業計画を話し合う。</li> <li>役割ごとに分担して、会社紹介に向けた資料（スライドなど）を作成する。</li> </ul>   |
| 第3次 | 2   | <ul style="list-style-type: none"> <li>グループごとに会社紹介を行い、どの会社にいくら投資するのかを考える。</li> <li>クラス全員で投資を行い、それぞれの会社がいくらの資金を集めたのかを確認して、資金が多く集まった理由を考える。</li> <li>株価の変動によって自分の投資がどのように変化するのか計算する。</li> <li>金融によるリスクとリターンの考え方を理解する。</li> <li>単元の学習課題について、複数の視点から起業と投資の必要性をまとめる。</li> </ul> |

#### (2) 第1次

この単元の導入部であり、単元後半の体験的な学習の基礎となる知識を理解させることがねらいである。

授業の導入では、ニュースなどを使って起業や投資に興味を持たせた後、単元の学習課題である「なぜ起業や投資が社会に必要とされているのか？」について予想させる。単元の学習の流れを説明することで、学習の見通しを持たせるとともに学習意欲を高める。

次の展開では、知識の理解を目的とした授業であっても、企業活動が私たちの生活に深く結びついていることを生徒の生活経験から気付かせたり、大企業と中小企業の違いを資料から読み取らせたり、直接金融は企業と株主それぞれにどのような利点があるのかをペア学習で話し合わせたりするなど、思考を通して知識を獲得させる工夫を行う。

### (3) 第2次

第1次の知識を基礎に、協働学習により起業を体験的に学ぶことがねらいである。

はじめに、個人作業で会社の事業内容を考える。誰を対象とするのか、どのような商品やサービスを提供するのか、売るためにどのような工夫をするのか、販売価格はいくらでどのような支払方法があるのかなど、1人1台の情報端末を使って調べながらワークシート(図1)での作業を進める。その際、今の世の中でどのような商品やサービスがあればより多くの人々が喜ぶのかという視点で考えさせる。

\_\_\_\_\_月\_\_\_\_\_日( )

公民の授業プリント \_\_\_\_\_年 \_\_\_\_\_組 \_\_\_\_\_番 名前 \_\_\_\_\_

## ～ 起業と投資 ～

**学習課題** なぜ起業や投資が社会に必要とされているのか?

●仕事の種類

| 業種    | 事業内容            | 業種     | 事業内容        |
|-------|-----------------|--------|-------------|
| 製造業   | ものをつくる。         | エネルギー業 | エネルギーを供給する。 |
| 小売業   | 消費者へ商品を販売する。    | 水産・農林業 | 食料や材料を生産する。 |
| 運輸業   | 陸海空で人やものを運ぶ。    | 鉱業     | 資源を採掘する。    |
| 建設業   | 人が生きる空間をつくる。    | 金融・保険業 | お金を扱う仕事。    |
| サービス業 | さまざまなサービスを提供する。 | 不動産業   | 土地に関する仕事。   |
| 情報通信業 | 情報を人々に届ける。      |        |             |

誰に向けて、どのような商品やサービスを提供したら喜ばれるのかを考えよう。

Q あなたがやりたい会社(株式会社)の事業内容を考えよう。

Q誰(どのような人たち)を対象とするのか?

Qどのような商品・サービスを提供するのか?(具体的に考えよう)

Q商品・サービスを売るためにどのようなこと(企画)をするのか。(具体的に考えよう)

図1 ワークシート①

次にグループになり、株式会社を設立する設定での事業計画を話し合う(実践では生活班の5～6名、計6班で行った)。その際、会社の中の役割(社長、企画、営業、広報)を分担さ

せる。事業計画では、会社のリスク(株価が下がる原因など)、社会貢献活動、株主優待の内容、株主へのアピールなども考えさせる。グループ協議によって事業計画が出来たら、会社紹介のための資料作りを分担して行う。その際、Googleドライブ内などに①発表原稿ドキュメント(社長役が作成)、②会社紹介スライド(企画・営業役が作成)、③会社カードスライド(広報役が作成)の資料を作らせ、ICTを活用した準備を行う。その際、次時に行う株式投資を判断する4つのポイントを説明して、資料作りの参考にさせる。

会社紹介スライドは、会社の事業内容について説明したもので、社長役の生徒はこのスライドを使いながら会社の魅力を伝える(図2)。

#### 企画内容

- ・スーパーで売られている食材や旬の食材を使用したメニューをオススメの食べ方でご提供
- ・レストランで提供している気になったメニューを自宅でも作れるようにレシピカードを準備して、購買につなげる工夫
- ・主に大型店に併設することで十分なスペースを確保

図2 生徒が作成した会社紹介スライド

会社カードは、1枚のスライドに社名、会社の紹介や事業の魅力を書いたもので、会社紹介の際に印刷して生徒全員に配布する(図3)。

3-1 5班

## 株式会社 ○○カンパニー

コンセプト: 身近で美味しい料理で人々を笑顔に

- ・主なサービス  
お客様が購入したスーパーの食材を調理、レシピカードの配布し常にご来店した料理を提供でき、ご家庭で料理を作るきっかけにも
- ・主な社会貢献  
売れ残りを活用...食品ロスの削減  
売上の一部を発達途上国に寄付...貧困問題の解決に貢献
- ・株主優待  
100株...半年に1回ご優待券(3000円分)の贈呈  
300株...半年に1回ご優待券(5000円分)の贈呈

図3 生徒が作成した会社カード

実践ではこのほか、自然豊かな宿泊施設を運営する会社、筋力強化のためのジムを運営する会社、総合商業施設の運営会社、新技術を導入した運輸会社など、多種多様な会社が構想された。

### (4) 第3次

第2次で起業された会社の説明を聞き、株式投資と株価の変動による投資額の変化を体験的

に学ぶことがねらいである。

まず、社長役の生徒が、会社紹介スライドを使って会社の事業を説明する（写真）。発表は、1グループ5分程度とする。新商品・サービスのアピールだけでなく、自社の社会貢献や株主優待の説明をして、多くの人に株式を買ってもらえるように工夫した発表をするように指導する。



写真 社長役の生徒による会社の説明（筆者撮影）

発表を聞いている生徒は、どの会社にくら投資するのかを考える。なお、自社以外の会社への投資とする。一人一人の株式投資の資金を100万円として、10万円単位で投資を行う。すべてのグループの会社の株価を1株1000円とする。例えば、1班の会社に10万円投資したら、1班の会社の株式を100株購入することになる。

株式投資を判断する視点として表1の4点を提示し、会社紹介の発表を聞きながら、それぞれ

表1 株式投資を判断する4つの視点

| 投資（株式購入）のポイント |            |   |
|---------------|------------|---|
| 1             | 売れそうか      | 会社が提案する商品・サービスは、魅力的なものか。たくさん売れるのか（ほしい人がたくさんいるのか）。価格は適当な金額か。 |
| 2             | 実現できそうか    | 実現可能な商品・サービスの内容か。リスクを考慮して、倒産しないで長期的に利益を得ることができる会社か。         |
| 3             | 社会に貢献できそうか | この会社は世の中に役立つ会社か。この会社の社会貢献は、より良い社会づくりにつながるのか。                |
| 4             | 応援したいか     | 会社の説明（プレゼンテーション）を聞いて、自分が株主となって応援したくなったか。株主優待は魅力的なものか。       |

れの会社の評価をワークシートに書き込む。投資先と投資額を決め、その理由をまとめる。その際、投資額から各社の購入株数を計算する。100万円すべてを株式購入に使い、購入した株数の合計が1000株になっているか確認する。

投資先と金額が決まったら、実際に投資を行う。全員に10万円と書かれた紙を10枚セットで渡し、黒板に貼られた各会社の封筒に投資する金額に合わせた枚数を入れる。例えば、30万円の投資なら3枚入れる。アナログな手法だが、投資（金銭を投入する）の感覚を実感できる。投資が見える形で行われるので、生徒も盛り上がる。投資後、社長役が封筒の中の投資額を計算して発表する。投資額が一番多かった会社について「なぜたくさんの資金を集めることができたのか?（「魅力的な会社」とは、どのような会社なのか?）」と自社の「事業内容やプレゼンの反省点(改善点)は?」をグループごとに話し合い、ワークシートに記入し、発表する(図4)。

封筒を回収し、投資額を計算すると、  
**私たち3年（ ）組（ ）班の会社は、株式の売買で（ ）万円の資金を集めた。**

③ 魅力的な企業

| 班 | 集まった資金額 | 班 | 集まった資金額 |
|---|---------|---|---------|
| 1 | 万円      | 4 | 万円      |
| 2 | 万円      | 5 | 万円      |
| 3 | 万円      | 6 | 万円      |

Q なぜたくさんの資金を集めることができたのか? その会社のどこに、どのような魅力があったのか?

（「魅力的な会社」とは、どのような会社なのか?）

Q 自分の班の会社の事業内容やプレゼンの反省点(改善点)は?

④ 株価の変動と投資

あなたが株式投資をしてから1年後、6つの会社の株価は変動していた。

| 会社 | 株価の変化 | 会社 | 株価の変化 |
|----|-------|----|-------|
|    |       |    |       |

図4 ワークシート③

実際には、株価はさまざまな要因によって変動する。株価の変動が生徒の株式投資にどのような影響を与えるのかを体験させ、どのような投資をすることでリスクを抑えられるのかを考



えさせる。

実践では、株式投資してから1年後の各社の株価の変動は、教師が設定した6パターン（図5）から抽選で決めることとした。社長役の生徒が、封筒に入っている株価の変動が書かれた紙を1枚引き、その内容に沿った自社の1年後の株価を発表する。

|  |  |
|--|--|
| <p>新商品・新サービスが海外で大ヒット!! 海外進出を進める。株価が2000円になった。</p>  | <p>宣伝の効果あり!! 新商品・新サービスが国内で大ヒット!! 株価が1500円になった。</p> |
| <p>新商品・新サービスがテレビで取り上げられ、ヒットの予感!! 株価が1200円になった。</p> | <p>客のイタズラ動画が拡散して、イメージダウン。株価が800円になった。</p>          |
| <p>新商品・新サービスの問題点がテレビで取り上げられ、大ダメージ。株価が500円になった。</p> | <p>会社の不正が発覚して大きな社会問題になり、会社は倒産した。株価が0円になった。</p>     |

図5 今回設定した株価変動の6つのパターン

上記の株価の変動によって、自分の株式投資にどのような影響があったのか、各社の保有している株式数から1年後の株式の価値を計算して、100万で始めた投資が合計でいくらの損失、または利益があったのかを明らかにする。計算がやりやすいように、ワークシートに例を示したり、カッコに穴埋めする形にしたりするなどの工夫を行う。

各自の株価の変動による株式投資の影響を踏まえて、株式投資のリスクとリターンについては、教科書p.134「技能をみがく8」中の「4 金融商品のリスク（利益の振れ幅）とリターン（利益）」の内容を確認しながら、「株式投資をする場合、どのように投資すればリスクを抑えることができるのか」を自分の投資の仕方から考えさせ、ペア学習で話し合わせる。また「株式以外にどのような投資があるのか」と発問し、預金、債券、投資信託などの金融商品の特色に注目させる。投資する際には、金融商品ごとのリスクとリターンを知ったうえで、選択していくことの大切さを説明する。

最後に、単元のまとめとして、学習課題「なぜ起業や投資が社会に必要とされているのか?」について、その理由を起業する人、投資する人、一般市民、政府などの複数の立場からまとめる。評価に関しては、以下のように設定した。

表2 単元のまとめの評価基準

| 評価 | 評価基準（思考・判断・表現）                       |
|----|--------------------------------------|
| A  | 金融のしくみや影響を正確に記述し、3つ以上の立場から理由を記述している。 |
| B  | 金融のしくみや影響を正確に記述し、2つの立場から理由を記述している。   |
| C  | 金融のしくみや影響の記述が不正確で、1つの立場からしか記述していない。  |

### 3 おわりに

実践での単元のまとめの記述内容を見ると、多くの生徒が、起業や投資の必要性を複数の立場、状況から考察していた。これは、起業や投資を体験的に学ぶことで、企業と金融のしくみとそれらが社会に与える影響についてより深く学ぶことができたからである。

また、単元後の感想では、「起業する人、投資する人が増えていくことで社会全体が良くなり、日本の発展につながるものが学べたので、私も大人になったら少し関わってみたいと思いました」など、この単元の学びから社会に主体的に関わっていこうとする姿勢が見られた。

単元の中に判断や選択を迫る体験的な学びを取り入れることで、生徒の主体性が引き出されるとともに、社会のしくみをより深く学ぶことができる。このような学びを多くの単元で実施し、生徒が今後生きていくときに必要とされる知識や判断力を育成していきたい。

<参考文献>

- ・金融経済教育を推進する研究会編（2021）『金融・経済の授業づくりをサポート 中学校公民 学習指導案（金融・経済関連）』p.37-71

帝国書院のWebサイトに、ワークシートを掲載いたします。

